

ロボットの助っ人①

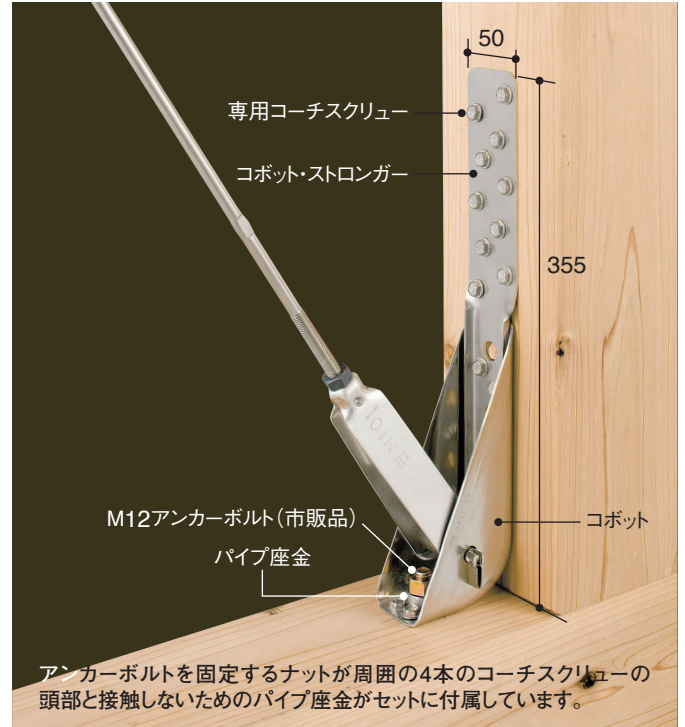
ロボット本体と組み合わせて 引抜強度がさらにアップする「ロボット・ストロンガー」

●ロボット本来の接合補強効果を一層強化する専用補強プレート

ロボット本体と組み合わせることで、本来備わっているホゾ抜け防止性能を2倍以上に強化する補強プレート「ストロンガー」。土台側は、ロボット本体をM12アンカーボルトとコーチスクリュー4本で固定。柱側は「ストロンガー」とロボット本体を重ねてコーチスクリューで固定します。4カ所のコーナーすべてを同様の処理をすれば、ホールダウン金物を使用したのと同様以上の引抜強度が得られます。

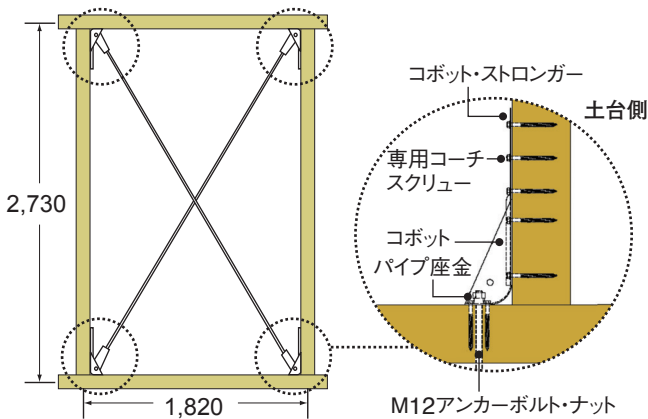


《梱包内容》ロボット・ストロンガー：1個／パイプ座金：1個／
専用コーチスクリュー：11本(予備1本)
※壁1面分の設置には、この梱包セットが4セット必要です。



アンカーボルトを固定するナットが周囲の4本のコーチスクリューの頭部と接触しないためのパイプ座金がセットに付属しています。

■岐阜県立森林文化アカデミーにおける引抜および壁倍率試験



《取付方法》

- 土台側：
 - ①基礎に位置を測ってM12アンカーボルトを埋設しておきます。
 - ②土台を貫通させたM12アンカーボルトにパイプ座金を通し、ナットで固定します。
 - ③M12アンカーボルトに干渉しないように注意して、専用コーチスクリュー4本でロボット本体を土台に締めつけます。
- 柱側：ロボット本体の内側に「ロボット・ストロンガー」を挿入、専用コーチスクリューでロボット本体と共に締めつけます。
- 梁側：上部にも同様の手順でストロンガーを設置します。M12アンカーボルトの代わりに、梁に貫通ボルトを通します。

《必要部材》

- ロボット・ステンブレースシステム：1面分(詳細はP.3を参照)
- ロボット・ストロンガー：4個
- パイプ座金：4個
- (土台側)M12アンカーボルト・ナット：**ユーザー様手配**
専用コーチスクリュー：8本
- (柱側)専用コーチスクリュー：60本
- (梁側)貫通ボルト：**ユーザー様手配**
専用コーチスクリュー：8本

《試験データ》引抜荷重試験

試験場所	岐阜県立森林文化アカデミー
土台の種類	スギ
最大荷重	45.9kN
許容荷重	18.9kN
N値	3.58

《試験データ》面内せん断試験(壁倍率試験)

試験場所	岐阜県立森林文化アカデミー
柱芯～芯距離	1,820mm
壁倍率	3.41倍

※上記は、柱頭・柱脚にホールダウン金物はいわず、軸組内面各4ヶ所にロボットとロボット・ストロンガーで構成した場合の数値です。(引抜荷重もロボットが同時に負担します)